令和７年度秋田県総合政策審議会　第２回企画部会　議事要旨

１　**日時**　令和７年８月２６日（火）　14 時～15 時 15 分

２　**場所**　秋田地方総合庁舎６階　総 607・608 会議室

３　**出席者**

○　企画部会委員

辻　　良　之　秋田県商工会議所連合会会長
伊　藤　明　子　株式会社ドレッシング・エー代表取締役
桜　田　善　仁　有限会社米道ふたつい代表取締役
吉　澤　清　良　立命館アジア太平洋大学サステイナビリティ観光学部教授
石　田　万梨奈　onozucolor 代表
小　泉　ひろみ　一般社団法人秋田県医師会会長
和　田　　渉　秋田大学大学院教育学研究科教授

□　県

笠　井　　潤　企画振興部長
小　松　鋼　紀　企画振興部次長
大　門　英　明　総務部次長
田　口　好　信　あきた未来創造部次長
米　田　裕　之　観光文化スポーツ部次長
安　杖　　一　健康福祉部次長
髙　橋　佐紀子　生活環境部次長
高　橋　源　悦　農林水産部次長
仲　村　陽　子　産業労働部次長
佐　藤　正　美　建設部次長
佐　藤　　寧　出納局次長
久　慈　隆　正　教育次長
細　川　大　輔　警察本部警務部首席参事官兼警務課長
清　水　康　成　企画振興部総合政策課長
坂　本　博　紀　企画振興部総合政策課政策監

４　**開会**

□坂本総合政策課政策監

ただいまから令和７年度秋田県総合政策審議会第２回企画部会を開会いたします。

はじめに、企画振興部長の笠井よりごあいさつ申し上げます。

５　あいさつ

□笠井企画振興部長

先月の第１回総合政策審議会以降、各専門部会やワーキンググループにおいて、次期総合計画の策定に向けて審議が進められており、部会長の皆様には、専門部会における活発な審議を力強くリードしていただいていることに、改めて感謝申し上げます。

各専門部会では、それぞれ所管する行政分野毎に審議を進めていただいているところですが、行政に対するニーズが多様化・複雑化する中で、一つの行政分野だけの取組では、課題解決につながらないこともあります。そうしたものについては、他の行政分野の取組と連携を図ることにより、成果につなげていく必要があります。

本日は、各専門部会やワーキンググループでの審議で出された、他の専門部会などへの意見を共有するとともに、前回の企画部会や審議会で皆様からいただいた御意見をもとに、次期総合計画の基本構成について再整理しておりますので、そちらについても御意見をいただきたいと思っております。

本日の企画部会が皆様からの率直な御意見により、実りある会議となりますよう願いまして、開会の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

６　委員紹介

□坂本総合政策課政策監

続きまして、７月３日の第１回専門部会におきまして、新たに部会長に選任された委員もいらっしゃいますので、出席者名簿に従いまして、本日御出席の委員の皆様を御紹介いたします。

（出席者名簿に基づき紹介）

７　議事

□坂本総合政策課政策監
　それでは、ここからの進行は、辻部会長にお願いいたします。

●辻部会長
　それでは、次第に沿って進める前に、一言申し添えます。審議内容は、議事録として県のウェブサイトに掲載されます。
　その際に、委員名は特に秘匿する必要はないと思いますので、公開で行いたいと考えておりますが、よろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

　御異議ないようですので、議事に入ります。
　はじめに、議事⑴の「各部会・ワーキンググループ間の調整について」、事務局から説明をお願いします。

□清水総合政策課長
（他の専門部会・ワーキンググループへの提案・参考意見について説明）

●辻部会長
　ただいまの御説明につきまして、御意見はございませんでしょうか。

（意見なし）

●辻部会長
　専門部会などから提案された事項について、取りまとめられておりますので、各部会で共有くださるようお願いいたします。
　次に、議事⑵「次期総合計画の基本構成について」、事務局から説明をお願いします。

□清水総合政策課長
（資料－１に基づき、次期総合計画の基本構成について説明）

●辻部会長
　ただいまの御説明につきまして、御意見、御質問はございませんでしょうか。

〇石田委員

私は未来創造・地域社会部会の部会長をしており、この部会の事務局は、あきた未来創造部になります。あきた未来創造部は、人口減少問題に対して一体的･一元的に取り組む部として2019年に設立されていますので､部会資料も、人口減少問題対策の内容が大半を占めており、それについて話し合う会となっていますが、資料のロジックが正直甘いと感じております。

あきた未来戦略課の職員からは、「人口減少対策はあきた未来創造部だけではなく、全体でやる」という話がありました。「全体でやる」ということは、人口減少問題対策に対して一元的・一体的に取り組む、司る部署があり、取組を進めるために、通常はロジックツリーを作るのではないかと思います。

しかし、未来創造・地域社会部会では、なかなかそういうものが出てこないため、人口減少問題に取り組むと表明している中で、政策以前に体制が連動しているのかということに疑問を覚えます。

また、もし司る部署がない場合、アジェンダをロジックツリー化せずに、ボトムアップだけで政策を進めると、重要なアジェンダがそれぞれの部署の間に抜け落ちてしまうのではないかと思いますが、その点についてお聞かせいただければと思います。

口清水総合政策課長

一点目の、人口減少対策を司る組織についてですが、あきた未来創造部は、人口減少対策に係る総合調整機能を担っている組織でございます。「司る」という言葉と、「総合調整」という言葉のリンクについては、少し難しいところがありますが、庁内での人口減少対策を担当する部署は、あきた未来創造部であると考えています。

もちろん、あきた未来創造部の取組だけで、人口減少問題が完結するわけではなく、様々な取組が関わり合うというところで、その全体を示すものが総合計画だと考えております。あらゆる施策を総動員しながら取り組んでいく必要があるということで、一つの部局の取組だけでなく、関係部局間の横断的な取組を進めていくことが必要であり、これまでも進められてきたと考えております。

そして、ロジックツリーについての御提案ですが、抜け漏れがないように、より戦略的に進めていくべきという御指摘だと思います。ロジックツリーは、実際の取組を進めていく上で、物事を関連付けながら対応策を考えていくために必要な作業だと思います。一方で、今回の総合計画は、個々の取組よりも、もう少し大きな政策・施策の整理という形となっており、そこでロジックツリーを作っていくと、膨大なツリーになってしまうのではないかという懸念も

ございます。以前、庁内の政策研究の中でロジックツリーを検討したこともあり、実際の施策事業の検討の際には非常に有効的なツールだと考えていますが、今回の計画を作る上では、少し難しいのではないかと捉えているところでございます。

しかし、計画実施段階においては、ロジックツリーの考え方をベースにしながら、事業目的を起点にバックキャスティングしながら考えていくことは非常に有効な手法ですので、それぞれの実施部局が、事業を企画・実施する段階で、活用するかどうか検討していくことが望ましいのではないかと考えております。

○石田委員

ロジックツリーについては、膨大なツリーまで作れと言っているわけではありません。

人口減少問題という大きな課題に対して、一つのアジェンダが社会減の抑制、もう一つは、人口減少が進んでいくことは当然とした上でのリスク管理、社会機能が疲弊しすぎないようにどうするか、ウェルビーイングといわれている中で我慢して生きるのではなく、地方なりの新しい幸福を見出していくといった大きなアジェンダがあると思います。この社会減の抑制に対して、「何が鍵となるのか」ということが一番大事な質問です。その上で、社会減抑制対策のアジェンダをいくつかにまとめ、その中での優先順位を決め、そこに施策をぶら下げていくということが、まさに戦略となります。戦略とは「何をするか」「何をしないか」を決めることです。

私はとても素朴な疑問を投げかけたと思っていますので、再考をいただけると大変ありがたいです。

また、この八つの政策で人口減少問題に向かうという論理なのであれば、各部会に「このアジェンダに沿って考えてください」という振り分けがなければ、審議は進まないのではないでしょうか。人口減少問題対策を見据えて、例えば、「教育・人づくり分野では何ができるのか」というファシリテーションがなければ、委員の皆様もなかなか意見が出にくいのではないかと思います。

資料－１にある「個性が輝く活躍の輪」というところが、人口減少問題対策において一丁目一番地だと考えますが、この図では、その部分が「未来づくり」と「教育・人づくり」だけに紐付いており、「産業」が抜けています。私の認識では、人口減少問題対策の一丁目一番地は、若者と女性の仕事の問題であり、データでも明白になっています。産業の人手不足と人口減少問題対策は連動していますので、切っても切り離せないはずです。このような図であっても、抜けている点があると、そこから始まる戦略はどうなってしまうのかと危惧

します。そのため、しっかりロジックツリーを作った上で、このような資料を作成していかないと、方向性が全く違うところに行ってしまう可能性があります。

○吉澤委員

石田委員の御意見と重なりますが、次期総合計画の期間が 10 年であればロジックツリーも複雑になるでしょうが、4 年間であれば、ある程度は見通せると思います。

その時に、「課題があって、施策があって、どこが担当するのか」ということぐらいは、やはり縦横に線を通しておかないと、ぶれる可能性があると思います。それを全面に出すかはさておき、その整理はされておいた方が良いかと思います。

また、前回の資料で「日本一持続可能な県」というフレーズがありましたが、今回は新しいフレーズを検討中とのことでした。

しかし、何をもって持続可能とするか議論しておくことは、とても大切で、秋田らしさというのは多分そこに出てくると思います。今回の資料では、秋田らしさを感じるのは「再エネ」と「森林資源」という言葉くらいです。ポンチ絵で表現するのであれば、尚更、ここに秋田らしさを表現しておく必要があるのではないかと思います。あるいは、この内容でいくということであれば、計画に「なぜこのフレーズとしたか」というところを、しっかり文章化しておかないと、どこの都道府県でも使えるものになってしまうため、とても危惧しております。

この図を、前回の三層式から横並びにされたのは、紐付けが分かりにくくなるのを避けるため、輪の重なりで表現したのではないかと思いますが、このような図は一人歩きをするので、誰が見ても分かりやすいものにしておかないと、混乱を招くのではないかと思いました。

□清水総合政策課長

まず、石田委員からの「個性が輝く活躍の輪」に産業という部分が抜けているのではないかという御指摘についてです。産業は、「地域が潤う豊かさの輪」という部分を主に担いますが、同時に「個性が輝く活躍の輪」にもつながっており、その部分を輪と輪の重なりで示しております。

また、吉澤委員からの「図が一人歩きしないように」という点については、我々の意図がうまく伝わっていないため、もう少し分かりやすくできないか検討していきたいと思っております。

○伊藤委員

資料－１の「目指す秋田の姿」にある四項目目の記載は、基本理念にある三項目目の記載と合致するところだと思います。

この「目指す秋田の姿」の記載は非常に柔らかいので、例えば、もう少し具体的に「福祉」や「医療」といった単語を入れた方が、より明確になるのではないかと思います。

□清水総合政策課長

吉澤委員から御指摘いただいた「秋田らしさ」が伝わる表現や、伊藤委員からの具体的な表現については、今後、端的なフレーズを示していく段階で、ブラッシュアップが必要だと思っております。

○小泉委員

医療や福祉分野でも、頑張っている女性たちがおり、様々な要素が混ざっていますので、このような形で総合計画を作るとすれば、政策と輪を結んでいる線はない方が良いのではないかと思いました。

○石田委員

一人歩きするという意味では、組織の全ての職員が見るものなので、図や言葉が示す意味をしっかり整理した上で作ることは、組織全体で目的を共有する上で大事だと思いますが、今は見せ方の問題について話すのはあまり生産的ではないと思います。

むしろ、「実のある政策をどういうプロセスで、どういう組織体制で作っていくのか」という点についてお答えが欲しいです。

この４年間で取り組む政策の構成は、総合政策全体の話だとすれば、知事が掲げている目標の「人口減少問題の克服」が一番上にあり、そこに向かうための計画がこの三つの輪で構成されているという考え方でしょうか。

□清水総合政策課長

次期総合計画では、県が抱えている最大の課題である人口減少問題について、当面の４年間の目標として「社会減 1,000 人台」としておりますが、人口減少問題だけの計画ということではありません。

○石田委員

そういうことであれば、一番中核となる人口減少問題対策に関しては、横断

的な要素が強いので、ロジックツリーを作って、組織も横断的に取り組んでいかないと進まないのではないかという御提案です。

また、あきた未来創造部は、「『未来づくり』は、『人口減少対策の克服』に対しての８分の１でしかない」とおっしゃっていますが、そうなると、こちらは何をどう考えて良いか分からなくなります。私としても、部会長として何に注力して議論を進めれば良いのか、戸惑いを感じております。

□小松企画振興部次長

石田委員がおっしゃったように、個別の政策が「人口減少問題の克服」という計画の肝となるような目標に向かうという考え方が、なかなか個別事業から示されてないので、分かりづらいところがあるのは事実だと思います。

今、各部局では総合計画の骨子案の取りまとめを行っており、その中で課題の整理や、そこに結び付く事業などを考えておりますので、そこをもう一度我々の方で整理したいと思っております。

総合政策課としては、各部局に対して、「人口減少問題克服に向けて取り組んでほしい」というアジェンダを示しながら、「それに向けた取組を一番の重点的な施策として考えてほしい」というお願いはしております。

ただ、未来創造・地域社会部会は８分の１ということではなく、我々としては、「人口減少問題の克服を引っ張っていく部会」と思っており、人口減少問題克服に向けた全体の流れは、やはり未来創造・地域社会部会が起点になっていただきたいと思っております。

□田口あきた未来創造部次長

計画を作るに当たっての８分の１とは、「産業」、「教育・人づくり」など、あらゆる部会が人口減少問題に関わり、計画の中で取りまとめていくという意味で、そのようにお伝えしました。

未来創造・地域社会部会としましては、移住・定住の施策、子育て支援の部分など、人口減少対策に直接関わる部分を担当していますので、未来創造・地域社会部会では、その部分の施策を考えていくことになります。

○石田委員

人口減少問題の克服とは、いわゆる移住・定住の話だと思います。

何が直結して、何が直結しないのか、誰がリードするのか、リーダーシップをとるところがなくて目標がどのように達成できるのかという組織論として、理解ができないという点は、お伝えしておきます。

どこかが責任を持ってロジックを考え進めていかないと、知事のおっしゃっ

ていることは達成できないと思います。

○吉澤委員

現在の「新秋田元気創造プラン」では、「人口減少問題の克服」が最重要課題として上の方に記載されています。しかし、今回のポンチ絵は、最後に到達するところが「人口減少問題の克服」と書かれているため、違和感があるのだと思います。

先ほどの発言と重なりますが、課題があって施策があって、どこがやるのか、というところはやはり整理しておくべきです。特に、最重要課題については、おそらく未来創造・地域社会部会がリーダーとなり、他部会と連携・協力しながら行っていくのだろうと思います。どこがやるのかということを整理しておけば、誰が見ても分かりやすい構成になると思います。

このようなポンチ絵で表現することが難しいのであれば、最終的な計画書の中で、目次のような形で出していただいても頭の整理はできますので、資料の作り方を工夫していただければと思います。

部会では、これから項目立てなど、骨格を作っていきますが、その項目立ては、上位の概念で揉まれたものが各部会に降りてきて、それを検討するという形になるのでしょうか。その点も整理しておく必要があると思います。

□清水総合政策課長

項目立てにつきましては、我々事務局でしっかりと検討してまいります。

図についても、現行プランの方が分かりやすいというお話がありましたので、前回の良さを見直しながら、より分かりやすい形で、三つの輪の部分の示し方も含めて改めて考えていきたいと思います。また、着地点がどこにあるのかも分かりやすく見せられるように、検討していきたいと思います。

○吉澤委員

観光・交流部会は、２回目が終わったところです。ここまでは、これまでの戦略に沿って項目を立てて、課題の洗い出しや提案事項を整理しております。

次期総合計画では、この大きな項目が変わってくると言われていますが、今の意見を聞く限り、その項目立てはさらに上位のところで揉まれたものが各部会におりてきて、それを今検討しているものと合わせていくような形になる、という理解でよろしいでしょうか。

□清水総合政策課長

はい。我々と各部局の方で、各政策の柱というものを検討しておりますので、

その柱が固まってくれば、それを基に次の作業に進んでいくと思います。

○和田委員

「人口減少問題の克服」というこの文言について、ずっと悩んでいることがあります。

教育分野では、子どもたちが故郷を愛する心や志を持って取り組んでいくことを推進しており、資料－１の「目指す秋田の姿」の四項目目につながっていると思っております。そう考えると、人口減少問題の克服という強いメッセージと「教育・人づくり」をどう結び付ければ良いのかというところです。

４年間という当面のところでいうと、教育分野として、大きな課題となっているのは、不登校児童生徒の増加、教師不足、そして部活動の地域移行です。この部活動の地域移行にしても、先生たちが忙しいので、地域みんなで抱えていきましょうという単純なことではないと思います。本質は、小学生から高校生まで、子どもたちの放課後を地域みんなでどう支えていったらいいかを考えることです。そのため、「地域移行」ではなく、「子どもの放課後支援」のような捉え方をしていただきたいと思います。

そういった意味では、教育委員会や学校だけではなく、みんなで取り組むという姿勢が、今回の基本構成では、「目指す秋田の姿」に現れているのではないかと思いますので、特に、教育としては、四項目目を大事にしていただきたいと思っております。

○桜田委員

この人口減少という大きな問題を、４年間である程度方向づけることは、とても大変なことではないかと思います。

農業では、種をまいて収穫するまでの間に、様々なプロセスがあり、プロセス毎の問題もあります。この４年間で目標を設定し、進行していく上でも、同様に問題が発生してくると思いますので、あまり具体的ではない方が逆に良いのではないかと思っております。大きな目標が一つあって、４年で終わるのではなく、その後も継続していくという流れの方が、県民へのアピールは弱いかもしれませんが、ビジョンとして考えていくのであれば、その方が良いのではないかと個人的に考えております。

●辻部会長

最後に、ワーキンググループの進捗状況について、御説明いただけますでしょうか。

□清水総合政策課長

ワーキンググループの進捗状況につきまして、御説明させていただきます。

「防災・減災・県土強靭化ワーキンググループ」と、「環境・くらしワーキンググループ」の二つを設置しており、各ワーキンググループにおきましては、現行の「新プラン」の取組状況の振り返り、次期総合計画に向けた有効な取組について御議論をいただいているところでございます。

まず、「防災・減災・県土強靭化ワーキンググループ」につきましては、7月22日に1回目を開催しており、河川整備のハード対策や、防災・減災に係るソフト対策について、御意見をいただきました。内容について補足説明いたしますと、河川整備などのハード対策に関しては、整備効果を適切に発信する必要性について、防災・減災のソフト対策に関しては、近年の災害状況やニーズの多様化などの社会変化を踏まえ、行政との連携を前提に、県民一人ひとりの自助と地域による共助の推進の重要性について、御意見をいただきました。

次に、「環境・くらしワーキンググループ」についてですが、7月18日と8月6日に計2回開催しており、犯罪被害防止対策や自然・環境保全などについて、御意見をいただいております。こちらについては、特殊詐欺等の被害防止対策の推進に当たり、「誰でも被害に遭う可能性がある」という観点からの啓発、あるいは年代に合わせた効果的な情報発信の重要性を、また、クマ等の野生鳥獣の市街地への出没に関しては、空間的な把握とゾーニングの必要性について御意見をいただきました。

今後の進捗については、いずれのワーキンググループも、専門部会と同様に、計3回の開催を予定しております。取りまとめた内容につきましては、10月下旬に開催します総合政策審議会において、報告いただくことにしておりますが、その前に、企画部会の皆様にも御確認いただきたいと考えております。

●辻部会長

それでは、続きまして議事（3）「県民からの意見について」、こちらも事務局から説明をお願いします。

□清水総合政策課長

（資料－2に基づき、県民からの意見について説明）

●辻部会長

ただいまの御説明につきまして、御質問、御意見はございませんでしょうか。

〇吉澤委員

観光・交流部会に係る結果もたくさん出ていますので、参考にさせていただきたいと思います。

大学教員をしておりますと、様々な行政から「一緒に考えませんか」というオファーがくることがあります。昨今、大学は地域貢献が求められておりますので、まちづくりと関連する授業の中で、学生の意見を聞く機会を設けることもあります。

是非、今回だけではなく、高校や大学などとも連携していただき、適宜、若者の声を拾い上げる試みをやっていただきたいと思います。

〇和田委員

４ページの主な意見の「子育て支援と教育の充実」の中に、「学校教育から秋田にいてもおもしろい、世界を相手に仕事ができるという意識づけや、多様な働き方、生き方への対応。」とあります。部会でも、教育・人づくり部会はどこまでの年齢を対象とするのか話題になりました。

私たちが考えることは、決して学校教育だけではなく、生まれるところから、つまり安心して出産ができる環境、そしてその後の保育所、幼稚園等の体制など、そういったつながりを見ていかないといけません。

先日、新聞で「秋田県こども施策審議会」のことが載っておりましたが、そういったところとも、私たちがしっかりすり合わせができるように、担当間でも連絡調整していただければと思います。

●辻部会長

吉澤委員からお話がありましたとおり、こうした取組は非常に大切なことだと思いますので、是非、継続していただけるようお願いします。

特に、県内に住んでいる我々には気付かないところについて、県外の方からの御意見を集められるような施策もお願いします。

〇石田委員

県民の皆様から御意見をいただくことは重要です。

一方で、県の具体的な施策の立案などに触れる際に、「もう聞かなくてもいいのではないか」と思う時もあります。

全国には様々なシンクタンクや研究所があり、どのようなライフスタイルを志向しているかなど、多くのデータや論文が既に出ています。それが秋田県出身者の志向とどれだけ違うのか、その差分を政策に反映できるのかと考え

ると、まずは基本となる全国レベルのデータをしっかり洗い出すことも必要であるため、双方の情報が大事になってくるのではないかと思います。

●辻部会長

議事⑶については、これで終了いたします。

今後の専門部会においても、参考にしながら、検討を進めていただきたいと思います。

それでは、議事⑷「その他」ですが、次期総合計画全体に関わること、あるいは本日の議題に挙がっていないことについても構いませんので、共有したいことがございましたら、御発言いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

〇石田委員

「人口減少問題の克服」という言葉を使った場合、社会減の抑制だけが大きな問題ではないはずだと思います。人口減少が進む中で、社会機能がどのように疲弊していくかを調べ、それをどう守り、新しい社会を創造していくか、リスク管理と創造が必要だと先ほどお伝えしました。

しかし、なぜその大事なことが資料－１には載っていないのでしょうか。この二大巨頭が一番大事だと思いますが、今の記載だと、社会減の数値だけが大事なのかと捉えてしまいます。

６月に閣議決定された「地方創生 2.0 基本構想」でも、今まで社会減の抑制という数値ばかり追っていて、この社会をどうしていったら良いのか、どうやって幸福な地域社会を守るのかという問いを忘れていたという反省が述べられております。

これは、国が言っているからやってくださいという意味ではなく、とても大事なことだと思いますので、考えていただければと思います。

また、参考資料の「他部会・ワーキンググループの提案・参考意見」に記載がなく申し訳ないのですが、是非、産業・雇用部会でも先ほど申し上げたところを考慮していただきたいと思います。

企業にとっての人材不足という観点だけでなく、「どういった働き方をこの地方は作っていかなければならないのか」という大きな問いがあると思っております。その問いが、「未来づくり」の範囲ではなく、産業・雇用分野の話となるのであれば、それは完全に間にある話なので、プロジェクト化して、しっかり取り組んでいただけると良いのではないかと思います。産業・雇用部会でも、是非、お話していただけるとありがたいです。

□田口あきた未来創造部次長

人口減少が進んだ中での社会のあり方については、このポンチ絵には書かれていないという点で、あきた未来創造部の所管ではありませんが、そういった観点は、既にありまして、現行プランの前の計画である「第３期ふるさと元気創造プラン」の中でも「攻めと守りの対策」として、両面から取り組んでいくことを盛り込んでおりました。

しかし、鈴木知事の考え方としては、適応の部分を言ってしまうと、我々行政がどうしてもそちらに逃げてしまうという意識があるため、そこは正面から受け止めていこうということで、「人口社会減 1,000 人台」というところを前面に出していきましょうという考え方があり、この整理になっています。

○石田委員

審議会で知事が「逃げになるから」とおっしゃった場面を覚えております。その時の前向きな姿勢がとても面白く、その勢いに乗って、私も積極的に発言させていただいているのですが、その御事情はよく理解いたしました。

ただ、一方で、すごく大事なことだと思いますので、どういう風に表現していくか、御検討いただければありがたいです。

○伊藤委員

御意見ありがとうございます。次の産業・雇用部会で皆さんと話し合いたいと思っております。私も、企業のフレックスタイム制などを促すことも必要だと思っていますので、活発に意見を出し合っていきたいと思います。

●辻部会長

ほかに何か御意見はございませんか。

ないようですので、以上をもちまして、本日の企画部会は終了とさせていただきます。

では、事務局に進行をお返しいたします。

８　閉会

□坂本総合政策課政策監

審議いただき、ありがとうございました。

今後のスケジュールについては、８月下旬から９月上旬にかけて第３回専門部会、10 月 27 日には第２回審議会を予定させていただいております。詳細につきましては、追って御連絡させていただきます。

それでは、以上をもちまして、「令和７年度秋田県総合政策審議会第２回企画部会」を閉会します。ありがとうございました。